

■**稲垣足穂** **小説家**。宇宙と飛行機を題材にした幻想的な作品で注目され、のち、少年愛を描いて一世を風靡した。いながきたるほ **ピヲ**/国産化 - 1900＝ 大阪市船場で、歯科医の次男に生まれる。

日露戦争終・1905＝ 5歳：

韓国反日暴動1907＝ 7歳：この頃から謡曲、仕舞を習う。小学生の時、祖父母のいる明石に移住し、神戸で育つ。

伊藤博文暗殺1909＝ **9歳**： **小さいころから映画や飛行機などに魅了され、その経験をその後の作品に昇華させることになる。**

明治天皇没・1912＝12歳：

第一次大戦始1914＝14歳：関西学院普通部に入学。今東光らと同級になった。在学時に同人誌{飛行画報}を創刊。

民本主義・・1916＝16歳： **飛行家を目指し、発足した羽田の《日本飛行機学校》の第一期生に応募するが、近視のため不合格となり断念。ちなみに、この時の合格者に円谷英二がいる。**

本格政党内閣1918＝**18歳**：

ベル岬仁条約・1919＝19歳：関西学院卒業後、神戸で複製機製作に携わり後に再び上京。出版社に原稿を送った後、

原敬首相暗殺1921＝21歳： **『佐藤春夫に『一千一秒物語』の原型を送付、評価されて、佐藤の弟の住まいに転居した。また同年の第2回未来派美術展に『月の散文詩』を出品し入選している。**

水平社結成・1922＝22歳：「チョコレート」「星を造る人」を{婦人公論}に発表。

関東大震災・1923＝23歳：関東大震災により西巣鴨に移住。**『自身で『一種の文学的絶縁とニヒリズム』と呼び、松岡正剛によれば、人間消去術の見本のような『一千一秒物語』を『イナガキタルホ』の筆名で金星堂より刊行、モダニズム文学の新星として注目を集める。師の佐藤は『童話の天文字者-セルロイドの美学者』という序文を書き、芥川龍之介は『大きな三日月に腰掛けているイナガキ君、本の御礼を云いたくてもゼンマイ仕掛けの蟻でもなければ君の長椅子には高くて行かれあしない』と寄せた。。同年、《中央公論》に発表したロード・ダンセイニの作品に登場する都市パブルクンドを舞台する『黄漠奇聞』を、伊藤整は『観念の遊びを含め、アラビアンナイトの古醇な怪奇性を加え、また風刺の辛さを含めたこの作品は長く失われない味わいがある』と評した。**

治安維持法・1925＝25歳： **『《文芸時代》に発表した『WCへ極美についての一考察』は横光利一の絶賛を得、『鼻眼鏡』、**

門本時代始・1926＝26歳： **『星を売る店』、**

金融恐慌・・1927＝**27歳**： **『第三半球物語』、**

共産党事件・1928＝28歳： **『天体嗜好症』が刊行されて、新感覚派の一角とみなされたが、**

海軍軍縮条約1930＝30歳： **『菊池寛の作品を褒めた佐藤を『文藝春秋のラッパ吹き』と罵倒、佐藤の家を飛び出し、文壇から遠ざかり、**

満州事変・・1931＝31歳： **『家郷の明石へと移り、それまでの作品を整理、浄筆して『キタ・マキニカリス』にまとめる作業にかかる。**

帝人疑獄事件1934＝34歳：父の死を受け衣装店を経営し、共同経営者の使い込みが発覚してこれを単独経営にするがこれも差し押えられ、その後は家賃の未払などもあって各所を転々とする。

二二六事件・1936＝**36歳**：上京し、『弥勒』などを執筆。ラジオでも星と文学について語り、自伝的小説で、魚座の恒星フォーマルハウトのことを指す「北洛師門」などを発表、アルコール、ニコチン中毒で執筆も滞り、出版社からも距離を取られて、 **『極貧の生活を送りながら、主に同人誌で作品を発表し続け、**

日中戦争始・1937＝37歳：

第二次大戦始1939＝39歳： **『「レーディオの歌』『水晶物語』、**

大政翼賛会・1940＝40歳： **『山風壘』、**

日米開戦・・1941＝41歳：

創価学会検挙1943＝43歳： **『飛行機物語 空の日本』、**

年金+総武装 1944＝44歳： **『天文日本 星の学者』、**

敗戦・・・・1945＝**45歳**：

新憲法公布・1946＝46歳： **『半自伝的な傑作小説『弥勒』、**

新憲法施行・1947＝47歳： **『宇宙論入門』、**

極東裁判決・1948＝48歳： **『明石』『悪魔の魅力』『彼等(THEY)』。『「放熱器」。機械学的エッセイを集めた『キタ・マキニカリス』、**

ネーブル・ヒロシによれば、アル中で窮迫その極に達していたところを、近くに住む書肆ユリイカ社主の伊達得夫から'少女50人を救うより、一人の稲垣足穂を救った方が日本のためになります'といわれた、京都の西本願寺少女保護施設六華園の保護主任篠原志代に呼ばれ、

京都に移って、篠原志代と結婚。志代は、その後も酒を飲んでは暴れる夫を支えつづける。

朝鮮戦争始・1950＝50歳：

独立回復・・1951＝51歳：

自衛隊発足・1954＝**54歳**：

55年体制始・1955＝55歳： **『三島由紀夫から、この年刊行した『小説家の休暇』で、'稲垣足穂氏の仕事に、世間はずっと敬意を払はなくてはいけない』とし、'昭和文学のもっとも微妙な花の一つである'と讃辞を送られ、**

インスントラマン・1958＝58歳： **『書肆ユリイカから『稲垣足穂全集』全18巻の刊行が始まる。『ヒップ・ナイドに就いて』を発表、**

美智子妃・・1959＝59歳： **『わたしの耽美主義』、**

安保闘争・・1960＝60歳： **7巻分のみ刊行で終わる。『その独創的で特異な且つ不断の創作活動に対して、第4回作家賞。』**

TV宇宙中継始1963＝**63歳**：

東京マシヅカ 1964＝64歳：旧師佐藤春夫が死去。 **『松岡が自らの"知"の出発点とするエッセイ『ロバチェフスキー空間を旋りて』、**

震ヶ関ビル・1968＝68歳： **『東京遁走曲』。『松岡がタルホ宇宙観のプラネタリウムと言う『僕の"ユリイカ"』に次いで、『ヒップ・ナイドに就いて』をベースに、それまでの多くの短いエッセイを積み重ねて、これをコラージュし、構成に精密な配慮をして書き下ろしたものと言う『少年愛の美学』が、三島由紀夫の後押しで第4回谷崎潤一郎賞の候補となるも受賞は逃したが、翌年に第1回日本文学大賞を受賞した。これに三島は'久しい間一部の好事家にだけ知られていた稲垣足穂は、今や時代のもっとも先端的な現象の一つになり、若い人たちの伝説的英雄にさえなった'と述べ、武田泰淳によれば、三島はタルホだけが自分の味方と思っていたらしい。**

全典闘ビーク・1969＝69歳： **『ヴァニラとマニラ』『ヒコーキ野郎たち』。『現代思潮社より『稲垣足穂大全』(全6巻)が刊行されるとともに、一種の『タルホブーム』になる。これに収録された、すべての自作を処女作『一千一秒物語』の注釈であると宣言する『"一千一秒物語"の倫理』にあるように、稲垣の主要な作品の殆どが何度も改稿されている。**

大阪万博・・1970＝70歳：新潮社より『稲垣足穂作品集(全1巻)』。中村宏との対談「機械学宣言 地を匍う飛行機と飛行する蒸気機関車」。

『飛行機をテーマにした作品中の代表作『ライト兄弟に始まる』、『絵本・逆流のエロス』に収録された、人間を口から肛門にいたるひとつの筒と見立てたエッセイ『A感覚とV感覚』を、独自の一元的エロス論として評価した滋澤龍彦をはじめ、生田耕作、土方翼、種村季弘、高橋睦郎、松岡正剛、荒俣宏など多くの人から尊敬を集めた。一方、否定されるようになった三島は死に至る。

ドルショック・・1971＝71歳： **『タルホ=コスモロジー』、**

日中国交回復1972＝**72歳**： **『鉛の銃弾』『パテエの赤い雄鶏を求めて』『菫色のANUS』『青い箱と紅い骸骨』『ミシンと蝙蝠傘』、**

石油ショック1973＝73歳： **『タルホ座流星群』、梅原正紀との共著『終末期の密教』、**

角栄金脈辞任1974＝74歳： **翌年にかけて、潮出版社より『多留保集(全8巻・別巻)』、野中ユリ、種村季弘と共著で『コリントン卿登場』、**

『おくれわらび』『タルホフラグメント』。『海』に掲載された『「男性における道徳』『物質の将来』、

クランポール事件1975＝75歳： **子宮ガンを発した妻志代が入院しても一度も見舞わず。『「人間人形時代』、**

妻志代が死去した際も非難していたが、酒も飲めず、横臥して自分の著作だけを読むばかりになり、

JALハイジャック・1977＝77歳： **結腸癌で入院、現代語訳で『多留保判 男色大鑑』を出版したのを最後に、京都市東山区の京都第一赤十字病院で急性肺炎を併発し、没した。**

Wikipedia「稲垣足穂」、松岡正剛「稲垣足穂さん」で補足、